

錦織

健

フレディの悪戯。

「フレディ・マーキュリーは、多才な人で、今となつては天使みたいな人じゃないですか。彼はこの世界のたくさんの人に影響を与えて天に帰ったと思うんですが、その中のちっちゃな一つが私かな…と。なんて言うと、ファンに怒られそうですが。」

小ワザこそが大事。

「天使みたいな人」というフレディに背中を押され、声楽の道を志したその人が、神々の国、出雲の生まれとは面白い。オペラを歌い、クイーンを愛し、日本歌曲を慈しむ日本を代表するテノールは、時折リアリストな一面も見せながら、サービス精神いっぱいに語ってくれた。この夏、三〇〇人のオーケストラを従えてのステージ。オペラ、トウラン ドット“の aria をもじって言えば、当然”その歌声、逃してはならぬ“である。

—ご出身の島根県で昨年、今年とリリースされたクイーンのカバー・アルバム（シマネ健バンド）には驚きました。昔からクイーンがお好きだったそうですね。

「クイーンはクラシックを始める前から

好きでしたね。バンドで学園祭に出たりして
いました。エマーソン・レイク&パーマーとか、
ちよつとひねった、プログレッシブ・ロックみたい
な、クラシックか何かわからないようなもの
が好きで、ディー・パープルやツェッペリンな
どは意外と聴いてないんですね。」

—— そういえば(クイーン)のボーカルであ
り、ソングライターでもある)フレディ・マー
キュリーは、オペラ好きとしても知られてい
ますね。

「彼はオペラ歌手と一緒に、それも通好
みの歌手とジョイントしていますからね。
私はその時の『バルセロナ』という曲のオー
ケストラ譜を持っているんですけど、ソプ
ラノとロックヴォーカルのデュエットがなか
ないんです。」

—— そんな少年がなぜ、声楽の道へと向か
われたのでしょうか。
「七〇年代、八〇年代は今のようなネッ
ト社会ではないし、鳥根県はまだ東京都
との情報格差もありましたし、当時の若
者の共通アイデンティティとしては、やっぱ
り、東京に出て一旗揚げよう!“でしょ
う。もちろん、そう簡単に旗は揚がりませ
んけどね。”

—— では、その当時、すでに自身の声、ある
いは声帯というものが、道を切り拓く特別
なものだったということでしょうか。

「とりあえずそれしかなかったんです。
ピアノも本格的ではなく、バンドのキー
ボード程度でしたから。思えば小さい頃は
アニメソングをよく歌っていて、コーラスとか、

バンドとか、フォークソングの弾き語りとか、
歌系のが好きだったことは確かですけ
ど。予想に反して、と言いますか、自分が
“音楽をやる”と言ったとき、反対する人は
いなかったですね。こんなに遊んでばっかりい
る子がよくぞ何かをやると口走ってくれた
ものだと(笑)。だから、株は落としておくも
のです(笑)。普通の子なら、夢みたいなこと
言ってるんじゃない、と言われたかもしれな
いですから。」

—— とくにその背中を押してくれた人やで
きことなどは?

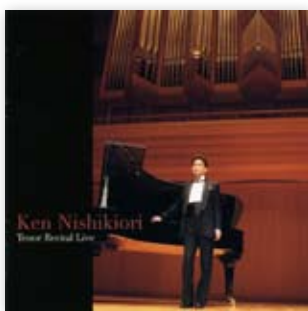
「それはやっぱりフレディ・マーキュリーで
しょうか。フレディはあれほど多才な人で、
多くの逸話を残しながら亡くなって、今と
なつては天使みたいな人じゃないですか。
フレディはこの世界のたくさんの人に影響
を与えて天に帰ったと思うんですけど、そ
の中のちっちゃな一つが私かな…なんてね。
そんなことを言うと、クイーン・ファンに怒
られそうですが。」

—— 肉体であるという視点から見ても、声と
いう楽器は特異なものという気がします。

「楽器を取り替えるわけにはいかない。し
たがつ、これがダメになったときには、ビジネス
は終わりであるということですね。機材や楽
器を使う人は、その性能機能が終わっても、
その人が終わりになるわけではない。でも、
我々には病気による不調も含め、ネガティブ
な要素がものすごくたくさんある。ポジティ
ブな要素はたった一つだけ。オンリーワンで
あるということだけです。そんなわけで非

常に厳しい毎日を送っております(笑)。
—— その楽器の感覚は、年齢とともに変わ
るものですか。

「生物学上、人生のうちに何度か、ピンチ
があるんですね。男性は四十代ぐらいで
ぶつ飛ばしていけますが、四十代で対応を
間違えると危ない。事実そこで引退する
仲間も多いんです。ピンチを乗り越えてき



『錦織健 テノール・リサイタル・ライブ』
氏が大事にしているというイタリアの古典歌曲から「Caro
mio ben / いい女よ」が、また、ボーナストラックとして
クイーンの「ボヘミアン・ラブソング」が収録されている。

は、“小ワザを大切に”(笑)。」

オペラの敷居。ガガの敷居。

—— 日本歌曲にも力を注いでいらつしやい
ますが、とくに大切にしている曲といいま
すと?

「そういうところは意外と硬派で、日本
歌曲じゃなかったりするんですね。今は
どうかわかりませんが、我々の頃は音楽
大学では日本歌曲を勉強していませんで
す。クラシックの本道ではないところに存在
していたんですね。では、自分にとって大事
にしているのは何かというと、それは声
楽の基礎を学んだイタリアの古典歌曲な
んです。感情が露骨ではなく、オペラート
にくるんで透明に淡々と歌いながら、想い
をこめる。この、あからさまでない、という
あたりが一番難しいんですよ。しかも歌詞
は昔のイタリア語ですから。“この想い、
苦しかりけり”みたいなね。それだけに歌
の醍醐味があり、やりがいはあるんです。
だから、私は日本のものを歌おうが、オペラ
の複雑なものを歌おうが、ロックでシャウト
しようが、必ず原点に戻るためにイタリア
の古典歌曲をプログラムに入れているん
です。」

—— 声楽家としての立場とは別に、オペラ
のプロデュースにも積極的でないらつしやいま
すが。

「オペラも歌舞伎も、どちらも様式の中
で感情を表現する芸術ですが、面白いこと

【にしきおりけん】

国立音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所第5期修了。文化庁在外研修員としてミラノに、五島記念文化財団の留学生としてウィーンに留学。第17回ジロー・オペラ賞新人賞、第4回グローバル東教子賞、第1回五島記念文化賞新人賞、第6回モービル音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。1986年「メリー・ウイドウ」カミュー役でデビュー、以後、「こうもり」アルフレード、「魔笛」タミーノ、「セヴィリアの理髪師」アルマヴィーヴァ伯爵、「コシ・ファン・トゥッテ」フェランド、「ドン・ジョヴァンニ」ドン・オッターヴィオ、「椿姫」アルフレード、「ファウスト」ファウスト、「蝶々夫人」ピンカートン役等の他、三木稔作曲「ワカヒメ」「静と義経」や、三枝成彰作曲「千の記憶の物語」「忠臣蔵」など邦人作品にも出演。また、ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」「交響曲第9番」、ヘンデル「メサイア」等のソリストとして高く評価を受け、親しみやすいトークを交えたリサイタルでもファンを魅了。00年、03年のNHK紅白歌合戦のほか、02年、04年に続き、06年にもオペラ・プロデュースを手がけるなど、多彩に活動。CDでは「恋はややし野辺の花よ」「初恋」「恋人を慰めて」「すみれ」「砂山」「秋の月」等をリリース。二期会会員。1960年島根県生まれ。

若い頃から必ず成功する、成功してやる、とは考えなかったと語る氏。「道を降りたとき、そこに膨大な時間が用意されているだろうから、一週間徹夜してでも次の道を考えれば良いと思っているんですよ。成功しなかったら終わるかというとはそうではなく、別のことを考えるだけなんです。」

に同じ頃に誕生しているんですね。「オペラの敷居は高くないですよ」という方がいますよね。でも、敷居がないわけではない。現代の日本人が初めて歌舞伎を観たとして、それがよくわかるとは言い難いでしょう。それが外国の歌舞伎のようなものとなれば、わかるわけがない。ただ、ちょっとした工夫で敷居を克服できると思うんです。日本人というのは、映画でも何でもそれまで馴染みがないものにも果敢に挑戦して、「こまでやってきましたよね。英語

を始めるるときと同じで、石にかじりついてでもプロになるとか、信じれば夢が叶うなんて、そんな甘い考えを持っていなかった。ダメなときはダメだろうと。トップを極めた人が成功する前から、自分は必ず成功すると思っていたとか、夢は叶うんだと言っている人は十万人に一人くらいしかないと思います。サクセスストーリーばかり見ていると人生を誤ってしまいますよね。」

がわからなくても、レディー：ガガを聴いている。コンサートにも行く。ガガのライブに字幕はないけど、オペラにはありますから、実際はガガよりわかりやすくなっているという点もあるわけです。敷居はあるけれども、わざわざ論ずるべきものでもない。

——この夏は、『グランシップ音楽の広場』で三〇〇人のオーケストラと共演ですが。

「まず、これはナマジャとでもムリだな、と。我々にとつては、ナマか、マイクか、ということが大事ですからね。三〇〇人ともなると、とくに管楽器の迫力が違うので、非常に楽しみです。マイクが使えればこちらも対抗できますし、ダイナミックさのレベルがワンランク違うものになるのではと思います。オペラや通常のリサイタルとオーケストラとの共演との違いは、指揮者という存在があつて、その人の音楽性に歌の事情をどう合わせていくかがポイントですが、広上（淳二）さんといえば大マエストロ。そのテクニックをもつてしたら、大オーケストラを自由にコントロールされると思いますよ。こういう時代だからこそ、スケールを大きくやればやるほど、そして、静岡県らしい豊かさをアピールすればするほど、日本中にいい効果をもたらすのではないかと思つています。」

「音楽家として、というより、人間としての自分に返ってくるものはありますね。音楽人ではなく、社会人としての自覚や視野を身につけられるというか。ただ、プロデュースについても、絶対一生続けてゆくというわけではないんです。これは音楽

——そうした活動が逆に音楽家としてのご自身に返ってくるものなどはおありですか。

「まず、これはナマジャとでもムリだな、と。我々にとつては、ナマか、マイクか、ということが大事ですからね。三〇〇人ともなると、とくに管楽器の迫力が違うので、非常に楽しみです。マイクが使えればこちらも対抗できますし、ダイナミックさのレベルがワンランク違うものになるのではと思います。オペラや通常のリサイタルとオーケストラとの共演との違いは、指揮者という存在があつて、その人の音楽性に歌の事情をどう合わせていくかがポイントですが、広上（淳二）さんといえば大マエストロ。そのテクニックをもつてしたら、大オーケストラを自由にコントロールされると思いますよ。こういう時代だからこそ、スケールを大きくやればやるほど、そして、静岡県らしい豊かさをアピールすればするほど、日本中にいい効果をもたらすのではないかと思つています。」

「音楽家として、というより、人間としての自分に返ってくるものはありますね。音楽人ではなく、社会人としての自覚や視野を身につけられるというか。ただ、プロデュースについても、絶対一生続けてゆくというわけではないんです。これは音楽

「まず、これはナマジャとでもムリだな、と。我々にとつては、ナマか、マイクか、ということが大事ですからね。三〇〇人ともなると、とくに管楽器の迫力が違うので、非常に楽しみです。マイクが使えればこちらも対抗できますし、ダイナミックさのレベルがワンランク違うものになるのではと思います。オペラや通常のリサイタルとオーケストラとの共演との違いは、指揮者という存在があつて、その人の音楽性に歌の事情をどう合わせていくかがポイントですが、広上（淳二）さんといえば大マエストロ。そのテクニックをもつてしたら、大オーケストラを自由にコントロールされると思いますよ。こういう時代だからこそ、スケールを大きくやればやるほど、そして、静岡県らしい豊かさをアピールすればするほど、日本中にいい効果をもたらすのではないかと思つています。」



8/7日

チケット発売中!

グランシップ 音楽の広場

15:00開演(14:00開場)

グランシップ 大ホール・海

全席指定 / SS席 3,000円 ~~発売~~ S席 2,500円

A席 2,000円 B席 1,500円

学生・子ども(4才以上大学生以下) 1,000円

→P16~参照